

# 市政懇談会開催記録概要【木次町】

## 地域づくり・行政

### 【地域づくり】

#### ・地域振興

Q	地域振興、地域の活性化の観点から、まつりや伝統行事を行う際、政教分離の問題があり、行政からの協力・支援を受けにくい現状にある。宗教的背景を持っていても地域振興のために、地域と行政が協力ができればと思う。
A	法規に違反することはできませんが、現在でも神楽などを中心に地域の伝統行事やイベントなどでは積極的に支援をしています。一概に判断することは難しいところですが、地域振興に寄与することであれば、市としても積極的に支援したいと考えています。
Q	まちづくり団体相互の情報交換の場を設定するなどの取組みをして欲しい。
A	まちづくりグループなどの情報交換の場として5月27日(土)チェリヴァホールにて、「地域振興補助金活用事業報告会」を開催します。多くの方々に参加いただき、各グループのこれからの活動に活かしていただきたいです。また、各町の地域委員から選出いただいた地域委員会連絡会により、まちづくり計画の策定状況などについての情報交換が行われています。連絡会で交換された情報は、再度地域委員会から、各自主組織へ再周知していただきたいと思ひます。そうした情報もしっかり活用していただきたいです。
Q	自主組織が日登地区でも立ち上がったが、ミニ役場的な役割を担うためにも、やりやすい施策を講じて欲しい。
A	地域自主組織の拠点は殆どが公民館になると考えます。今までの公民館は、社会教育推進が主な仕事でしたが、あらゆる役割を担い、総合的に業務を行っているのが現実です。公民館の運営の仕方は各町で様々ですが、今後はどの地域も自主組織の拠点となって頂きたいと考えています。日登地区の組織も既にミニ役場的な構造となっていますので、ぜひ雲南市の模範となって頂きたいです。地域自主組織の活動に関しては、部局などの縦割りではなく、市を挙げて支援していきたいと考えています。

#### ・地域要望

Q	昨年要望事項を提出しているが、実現したのは溜めマスの蓋だけである。将来に向けてどういった対応をしてもらえるのか。
A	現年の予算で対応できるものはしていくように努めています。18年度は523件の要望がありました。市だけでは解決できない問題や予算の制限もありますので、一概には言えませんが、年次計画をたてて実施していきます。

#### ・公民館のあり方

Q	平成19年度より公民館へも指定管理者制度が導入されるそうだが、公民館のあり方検討委員会ではあまり検討されていないようだ。現在の状況を教えて欲しい。長年地域の拠点として活躍してきた場所なのでなくてはならない。
A	検討委員会において、現時点ではまだ検討が進んでいません。公民館への指定管理者制度の導入について、施設の維持管理面については対象施設として検討していきますが、運営面そのものに制度を適用する考えはありません。地域の拠点がなくなるということは考えていませんし、市としては、公民館に社会教育推進のための拠点としての役割に加え、地域自主組織の拠点としての役割も果たしていただきたいと考えています。
Q	公民館の運営費が減になったのはなぜか。議員は減っても公民館は充実させると合併前に言っていたのに話が違う。市長の考えはどうか。
A	雲南市全体で歳出予算の抑制を図っています。公民館もその例外ではありませんが、活動が継続されるよう十分配慮しています。
Q	公民館の役割について、市長と教育長の考えに違いがあるように感じる。公民館の検討委員会が来春にはあるそうだが、公民館の現場の声を聴いて検討してほしい。
A	公民館の活動に対する考えに両者の違いはありません。地域自主組織の活動拠点になりうるところは、殆どの地域で公民館になると考えます。公民館には、社会教育の推進及び地域自主組織の拠点としての役割があると考えています。これは、雲南市になってからの考えではなく、合併協議会のときから温めてきたものです。

**【防災・防犯】**  
**・地域防災計画**

Q	地域防災計画を策定中だが、地域と密着した計画としてほしい。また策定期間はいつ頃になるのか。
A	今年度のできるだけ早期に、旧6町村の地域防災計画をベースとした「雲南市地域防災計画」を策定します。また、来年度には、島根県が水害の浸水想定区域のデータ作成や、土砂災害計画区域等の設定を予定しており、より地域に密着した計画となるよう、その後速やかに、雲南市の避難所の指定を見直すとともに、総合的なハザードマップを作成し、住民の皆さんに配布、周知する予定です。

**・7月豪雨災害**

Q	水害に対して情報を流すのが遅かったのではないかと。災害に対する対応も合併前より遅いようだ。雨量についても随時教えてほしい。
A	7月17日、午前5:49に気象警報が発表され、直ちに警戒本部を設置、気象情報については告知放送で周知を図りました。今後は、雨量についても放送で伝えていきます。
Q	今回の災害については心して対応してもらったように思うが、避難場所の適否については早急に検討してほしい。
A	平成18年度中に防災計画を策定しますので、その中で、災害の種類毎に、避難場所の適否を確認します。
Q	漆仁自治会では、消防団や総合センターからの派遣を受け、大変心強かった。同地区では、2世帯が自主避難をしたが、避難所になっている交流館が浸水した。現在、復旧の調査をしてもらっているが、早期に復旧してもらえるようお願いする。
A	早急に復旧を図りたいと考えています。
Q	今回の豪雨の際、斐伊地区の自主避難場所は木次総合センターとなった。しかし、他の地区住民の避難も予想され、収容人数を考えたとき、同センターを避難場所としたことが適切であったか疑問が残る。また斐伊地区からでは、災害時の移動は困難である。
A	この度の豪雨の反省も踏まえ、防災計画の策定にあたり地域の実態に応じた、避難場所の設置を検討します。

**・防災**

Q	請川樋門のところにポンプ場を設置してほしい。
A	予算的な問題がありすぐに対応することは難しいですが、県に要望していきます。
Q	下熊谷下に水門ができていながらはなにか。
A	下水道の雨水を排除する物で三刀屋川からの逆流を防ぎます。将来は宅地化の現状を見ながら、ポンプ設置も考えています。

**【行財政】**  
**・市政運営**

Q	弱者の立場にたった行政をしてほしい。
A	最近新型地方交付税の導入が検討されており、人口と面積によって交付税を配分するといった話もあります。そうなれば、大都市など人口の多い地域ほど恩恵を受けることとなり、地方は益々衰退してしまいます。地方が発展してこそ国全体が潤いますので、常々国の方にはそうならないように要望しています。

## ・公債費

Q	公債費の将来的推移について教えてほしい。
A	財政計画における公債費の推移状況は、平成21年にピークを迎え、以降減少していきます。現在は合併までに借入した起債を返済している状況です。雲南市になり普通建設事業とそれに伴う起債の借入を極力抑えることによって、公債費総額を抑制する努力をしています。現在は基金(貯金)を取り崩しての予算編成を余儀なくされていますが、基金を取り崩さないでもやっていける状況に改善していく必要があります。このために職員の削減や、各種補助金を削減する必要があります。補助金については、類似団体に比べると格段に高く、物件費は2倍ぐらいになっています。将来的に各町にあった類似施設を統合し物件費を抑えるなど、行財政改革を進めていく必要があります。行政だけでなく市民の皆さまにも痛みを伴うことができますが、ご協力を頂きたいと思います。
Q	新聞報道によると、一人当たりの借金の金額が雲南市はワースト5に入っていた。10年ぐらい先を見通した計画を立て、第3セクターの整理を行うなど、財政健全化に努め、未来に期待がもてるような雲南市にして欲しい。
A	現時点では平成16年度の決算が最新となりますので、これに基づき回答いたします。平成16年度末時点での債務残高は約565億円。これを一人当たりで換算すると約123万円となります。これは県内8市の中で最も多く、29市町村の中では18番目です。松江市、出雲市などは元々中核となる市へ周辺の町村を取り込み合併しており、人口が多いため、そのため1人当たりの債務残高も抑えられています。対して雲南市は、6町村が合併しており、そのうち4町村で過疎債を多く発行していたため、必然的に債務残高も多くなっています。雲南市の有形固定資産の割合を見ると、土木費(31.9%)、教育費(27.5%)の占める率が高くなっており、合併前より道路整備、施設建設などの財源として起債してきたと考えられます。これからは中期財政計画に従い、行財政改革を確実に実践し、債務残高の抑制に取り組んでいく必要があります。ご指摘の第3セクターについても議会で第3セクターの委員会も設けられており、そのあり方についても検討し、解散や民間にまかせるといった方向性を出しています。
Q	雲南市は夕張市のように一時借入金はないか。
A	一時借入金はありませんし、あってはならないと考えます。
Q	旧6町村で潜在的な債務はどのくらいあるのか。
A	債務負担行為を組み、明確に予算化しているものはありますが、潜在的なものはありません。

## ・職員数など

Q	昨年度の退職者数及び本年度の新規採用職員数、嘱託・臨時職員数を教えて欲しい。
A	退職者数30名、新規採用職員6名です。嘱託・臨時職員については、合わせて270名程度です。
Q	市職員の余剰人員150人を10年間で調整する計画がある。他市町村は、今の人員からさらに減らすといった計画を立てている。雲南市は危機感が少ないのではないか。
A	150人削減するという事は、全体の23%にあたり大変な数字です。10年間で200人を減らし50人を採用したいと考えています。雲南市は面積が広く、その分他市と比べ、行政効率が悪いので、ある程度的人员も必要であると考えます。

## ・職員給与

Q	人件費が大きな割合を占めているが、中期財政計画では、年によって減額割合に差がある。また19年度は増加しているがなぜか。
A	昨年度の退職者が30人と見込み以上に多く、18年度の人件費は当初の計画よりも減額幅が大きくなっています。19年度は、職員の定期昇給が見込んであるため、一時的に増加に転じています。そうしたことが要因となり、ご指摘の差が生じています。今後、中期財政計画を見直していくことも考えられます。
Q	職員の給与について、8級制を導入されていると思うが職務職階制をきちんとしてほしい。
A	職務職階制は行っておりませんが、雲南市としての給与体系に基づいて適切に運用しております。なお、市町村は8級制をとっていましたが、昨年の人事院勧告により6級制となっています。

### ・職員教育

Q	市の基本方針を約500名の職員にどのように周知されているか。
A	基本方針等については、議会や、月2回の部長会議、戦略会議等の際に、常々話しておりますし、接遇日本一実現のために努力するようにと度々言っています。また市民の皆さまに協働のまちづくりをお願いしているわけですから、当然職員が一体感を持ってやっていかなければと考えます。

### ・指定管理者制度

Q	指定管理者制度導入後の現状と今後の計画について教えて欲しい。
A	民間のノウハウを活用し、市民サービスの向上、経費の削減を図るため平成17年度より指定管理者制度を導入しています。本年度60箇所の市施設について、同制度を適用しています。今後は条件が整った施設から順次同制度を適用していきます。

### ・公共施設管理

Q	地域の様々な行事を行う際、八日市地域福祉サブセンター(八日市会館)を拠点に取り組みたいが、使用料や冷暖房費が高い。もう少し安価で利用しやすくしてほしい。
A	現在使用料は合併前より木次町で定められていた料金をいただいております。町内の他の2カ所の地域福祉サブセンターと同一の料金になっています。また、公共施設使用料については、いずれ市で統一が図られます。
Q	八日市地域福祉サブセンターの裏に設置されているトイレだが、あまり使用する人がいない。そのため、計画的に整備されたものであるか、疑問に感じる。
A	同トイレは、旧木次町において、商工会や地元住民の方々と策定した計画を基に福祉トイレとして計画的に整備したものです。通りから離れているとの皆様からの指摘もいただいておりますので、今年度中に案内看板の設置するなどし、利用していただけるよう工夫します。
Q	下熊谷の空き家活用について ワークショップなどを開催されていたようだがその後どうなっているか。
A	地域交流センターとして利用するため、市が取得したものです。在り方についてワークショップを開催しており、まちづくり交付金事業の中での整備を検討しています。現在、同事業は市道整備を中心に進めていますが、それが完了した後、事業が終了する平成20年までに実施します。

### ・税金等の徴収

Q	市民税・市営住宅家賃・給食費などの滞納が多いと聞いている。これに対して、どのように対応しているのか聞きたい。財政状況が厳しい中、滞納対策も厳しくしなければいけないと思う。
A	今年度行政組織の機構見直しを行い、市民部の中に収納管理課を設け、税の徴収体制の充実を図っています。滞納関係は十分な法的知識が必要になるので、職員の研修・養成と具体的な実務の習得を進めたいと考えています。市税や各種料金の徴収は、現在各担当部署で行っていますが、今後は管理職を中心とした対策本部による徴収も検討していく考えです。また、島根県との税務職員の相互併任制度を利用し、県の税務職員に着任頂き、専門的指導を受けながら、本市職員の実務力向上を考えています。雲南市の場合は極端に収納率が悪いわけではなく、現年分は98.5%の収納状況であります。滞納には色々な事情がありますので、今後は個々の相談業務も充実させながら回収に努めていきます。
Q	本年度の徴収業務人件費は1億5千万円ということだが、これは滞納徴収にかかわる人件費なのか。
A	税務の賦課業務に当たる税務課17人、収納業務に当たる収納管理課8人分の職員人件費です。
Q	毎月送付されていた税等の振替済通知書を廃止したことは非常に評価できる。今後もこうした業務改善に努めて欲しい。
A	今後も貴重な財源を確保するため様々な業務の改善について工夫・努力します。

Q	昨年も言っておいたが、固定資産税の徴収方法が直っていないのはなぜか。分割納付したい人が申し出るというのは逆ではないか。
A	納付書で納入していただいている方については、年度当初送付する納付書(4期分)により、年4期に分けて納付していただいております。口座振替の方は、金融機関へ申し込まれる際、分納か全納のいずれかを選択していただいております。これにより引きさがりが行われています。口座振替の方で、全納から分納へ変更をご希望の場合、金融機関へ変更の届出をいただいておりますので、お手数ですが手続きをしてください。

### ・市の物品購入等について

Q	市で購入する物品については、地元の業者に発注をして欲しい。また、競争入札がされることは良いが、採算を度外視した入札が行われているということ聞く。そのようなことがないようにして欲しい。
A	入札について、大きな事業は雲南市以外の業者を指名することもあります。基本的には雲南市に本店のある企業をお願いしています。またかなり過当競争になっているということですが、気をつけて参ります。

### 【広報・広聴】

#### ・市政懇談会

Q	全市一斉とはいかないが、例えば今日は「西日登地区の日」というのをつくってもらい、市政懇談会の前に、市長以下執行部が地域の実態や地域の活動の様子などを視察されてはどうか。
A	市政懇談会の日にその地域を廻るというのは、一考を要しますが、地域の実態や地域づくり活動の様子を把握した上で懇談会に臨むのは当然のことと考えています。
Q	市政懇談会ででた質問や意見が、執行部以下の職員にどういった形で伝わっているのか。
A	市政懇談会ででた意見は、全て冊子化しており全職員が把握しています。既に18年度の市政懇談会についても、できているところから冊子化し、配布しています。
Q	市報のページ構成について、市人口の動向が裏面に記載されているが、非常に大事なことであるので表紙に掲載してほしい。
A	市報のレイアウトについて検討します。

### 【その他】

#### ・定住対策

Q	団塊世代の受け入れについて、どのような対策をされているのか。
A	本年度定住推進員を1名から2名に増員し、インターネット等で空き家の情報等を周知、また斡旋等おこなっています。

### 産業・情報

#### 【農林水産業】

#### ・農業振興

Q	7月の豪雨による被害は、激甚災害の要件を満たしているように思うが、農業や、中小企業対策などを進めていく上で、有利な条件で復旧対応ができるように関係機関に働きかけて欲しい。
A	島根県全体の被害を数字的にみると、雲南市は激甚災害の指定にはならないようです。そのため、先日、竹下亘議員が被災地視察に来られた際、激甚災害として扱ってもらえるようお願いしたところです。更に、継続的に国の方へも要望していきます。

## ・牛の放牧地

Q	宇山地区内(秋井谷)に放牧地を造成されるようだが、災害の発生しやすい場所への造成はしないよう調査等慎重に進めてほしい。また造成される際は八工などの衛生面の管理を徹底して欲しい。
A	災害の発生しやすい場所への造成はしないように、また、今後地元の皆さんと協議しながら設計していきたいと考えています。衛生面についてですが、健康の森をはじめ木次町内に何箇所か放牧地がありますが、それらの実態から、問題はないものと考えています。

## 【雇用・労働】

### ・障害者雇用拡大

Q	企業誘致の実績があり非常に嬉しいが、合わせて障害者雇用の安定・拡大も検討して欲しい。誰もが暮らしやすいまちづくりにもつながるものである。
A	障害者雇用の安定・拡大の実現をめざしたいと思います。障害者の雇用率については法律で定められており、雲南市役所でも、毎年障害者採用計画をたてております。現在市長部局で2名の雇用不足、教育委員会部局で1名不足している状況ですので、今後障害者雇用対策に努めていく必要があります。

## 【商工業】

### ・企業の倒産

Q	ショッピングセンターが倒産した。同ショッピングセンターは地域の納入業者と多くの取引があり、地域の業者も大変な思いをしておられる。また従業員の皆さんの今後も同様に心配される。
A	現在、地元の経済関係者らがショッピングセンターを復活させようと努力されており、7月中に再開できるのではないかと聞いています。その際に市としても、雇用の確保、納入業者の継続取引など、事業再開に当たっての申し入れをしていく所存です。また行政の立場として、上記の問題も含め、起業家ができるだけ負担を少なく、事業展開できるような対策を講じています。

### ・空き店舗等の活用

Q	なかなか空き店舗対策が実を結んでいない。島根銀行木次支店が10月に54号線沿いに移転するという話も聞いた。耐震構造ではないので解体されると思うが、地域で買取りとったことはできないので、市でなんとかしてほしい。
A	空き店舗対策について、店舗利活用の案があれば改装費の助成を行っていますので、商工会を中心に皆さんで案を練っていただきたいとです。島根銀行の件については、今後関係部局の方で跡地活用の件も含め検討します。
Q	新しい商店ができるようなハード面の整備をお願いしたい。商工業者は市の予算削減の影響を受けている。何か対策を考えてなければ廃れていく。
A	産業振興センター発足以来5つの産業を誘致しました。日本全体でみると、戦後最大の景気拡大基調で、徐々に地方への企業進出などの効果が現れています。西日登地域に日進産業などの企業が進出しつつあります。雲南市に進出したいといった企業に対する整備が必要であると考え、雲南市土地開発公社との協議も進めています。
Q	湯村地区内においては、旧木次町時代に中島製作所を誘致してもらった経緯がある。残念ながら、現在は撤退され空家となっている。産業振興センターが立ち上げられているようだが、こうした空き工場の有効活用を図って欲しい。
A	ご指摘の場所については、新たな企業と数回交渉した経緯もありますが、現在のところ十分な結果が得られていません。こういった問題は、産業振興センターだけで対応していくのは難しく、皆さんと協力しながら進めていきたいと考えます。

## 【観光】

### ・桜土手の整備

Q	本町駐車場付近より斐伊川桜土手へバリアフリーの歩道橋をかける事業計画があったが、今現在どうなっているのか。厳しい財政事情もあるが、再検討してほしい。木次に来てきれいな桜が観たいお年寄りや体の不自由な方にも、苦労なく花を見て欲しいという思いがある。
A	まちづくり総合支援事業において計画されていたものですが、合併後の事業見直しにより、中止されています。事業見直しでは、生活基盤整備を最優先することとし、それ以外の広場、公園整備などについて事業費の52%減を図りました。しかし、見直しにより事業中止された事業も、旧町より計画され、それぞれの思いが込められたものです。今後も市で引き継いだ事業においては、他事業等で検討するなど、計画実現できるよう、最大限努力していきます。

## ・尾原ダム

Q	尾原ダムについて 素晴らしい景観ができるので、国立公園としてはどうか。
A	尾原ダム湖公園については、地域に開かれたダムの整備計画に基づき、国、県、市、それぞれの役割の中で整備することになりました。これにより県によって、サイクリングコースとボートコースの2つが整備されます。市としては、残土処理場の取扱い、PR館の交流館への改装、ワークステーションでの販売所を整備します。国立公園の件については過去の協議経過等も考慮し、調査してみます。

## ・映画「うん、なん？」

Q	印瀬の壺神などが撮影の候補地に挙がっているようだが、地元の皆で協力は惜しまないので情報公開をお願いする。
A	全国から3000人の応募を頂き、東京と島根で出演者のオーディションが開催されました。8月から撮影開始し、来年の秋に全国一斉放映する予定です。やまたのおろち伝説を活かした映画づくりとして、地元の酒やこの地域の景観も撮影される計画になっています。西日登地区は地元中の地元でありますので、一刻も早く情報を発信するよう監督と話し、撮影の際はご協力を頂きたいと思えます。
Q	映画の撮影が行われるようだが、相当の資金が必要になると思う。市で補助金等を検討されているか。
A	映画制作に約1億円の経費がかかります。先方と協議した結果、3,000万円の補助を行う予定です。3,000万円のうち、1,000万円(うち県補助金500万円)を市より支出します。残りの2,000万円については、企業などにご協力いただき、寄付金などから充当していく考えです。
Q	雲南市で映画の撮影があり、3,000万円の費用がかかるようだが、どれだけの経済効果が見込まれるか。
A	「うんなん映像プロジェクト事務局」により映画制作が構想されたのは、雲南市の地域資源を活かしたまちづくりや、それらを情報発信していきたいという願いによるものです。雲南市の地域資源や魅力を全国に情報発信できれば、これからの交流人口拡大につながります。来年の秋に映画の放映を予定しており、たくさんの皆さまが雲南市に来て下さるものと期待しています。雲南市に来られた方から、さらに他の人へ雲南市の魅力が広がっていくなど、波及効果をあげていくことも必要であると考えます。

## 【情報化】

### ・携帯電話

Q	災害時に普通電話が止まっていた時間があつた。温泉地区は、携帯の届かない場所(NTTドコモ)があり非常に不安な生活を強いられた。尾原ダムの工事関係についても、携帯が使えなければ仕事がつらいのではないかと、なんとか携帯が通じる地域にして欲しい。
A	携帯電話受信不能地帯については、雲南市内では7箇所あると把握しています。移動通信用鉄塔施設の整備を進めるためには、携帯電話事業者の事業参画が必要であり、各事業者は事業地区の採算性を考慮し参画を検討しています。昨今の状況として、各社とも新方式への移行に力を注いでおり、新たな事業参画は難しい状況にあります。しかし雲南市としては、引き続き各事業者へ要望していきます。

## 教育・文化

### 【学校教育】

#### ・安全管理体制

Q	登校時、所用で学校を訪れたが、校門のところにて2名の先生がおられただけで、職員室には誰もおられなかった。これでは、危機管理体制が十分とは言えないと思う。子どもが犠牲になる事件が多発する今日、安全対策を講じていただきたい。
A	子どもの登校時に全員の教員が出動している状態ではありませんが、各学校において早出、遅番などの分担をし、安全面に配慮されています。再度実態を確認し、必要に応じてさらなる対策を講じます。

#### ・通学路・登下校

Q	全国で不幸な子どもの事故がある。小学生が通学路として木次駅の裏から洞光寺を抜ける道(市道三日市洞光寺線)を利用しているが、道幅が狭く危険である。八日市側のトンネルのところまで改良する目処があるのか。そうでなければその時間帯の車の通り抜けを禁止にするなどしてはどうか。
A	指摘箇所までの整備予定は現時点ではありません。今後教育委員会と安全対策について協議します。

Q	中学生の下校時の安全対策として、部活して帰る生徒の送迎を保護者がするようにと学校から言われるが、下校指導はどのようにされているか。
A	季節に応じて指導しており、できるだけ複数で帰るよう呼びかけ、一人で帰る場合は途中まで迎えに来てもらうなどの対応をお願いしています。学校への指導を今後徹底していきたいと考えています。
Q	子どもの通学路について 本谷、中谷の小学生は横断歩道のない道路を通過する。横断歩道の設置をお願いしたい。
A	通学路については、学校と保護者の話し合いによって決められていますが、この件については、木次町本谷下自治会からも地域要望が挙げられています。今後「木次地域委員会」で内容を検討し、重要且つ緊急を要するものから対応していきます。

### ・ふるさと教育

Q	ふるさと教育を進めるにあたり郷土資料としてビデオ作成など検討をしてはどうか。成人式でもそういったものを見せれば、Uターンに繋がるのではないか。また、学校の児童生徒には郷土学習を進めてほしい。
A	ふるさと教育は、H17年度から島根県全域で取り組んでいます。学校、地域、家庭が一体となった事業が展開されており、市民が先生となり歴史・伝統文化の授業を行うなどの取り組みがされています。地域の皆さんと一緒に地域の子どもの育んでいくためにも開かれた学校をめざしていく必要があります。地域の皆さまのご意見やご協力を頂きながらこの事業を進めていきたいです。

### ・クラブ活動

Q	中学生の部活動について、希望する部に入れないという不満をよく聞く。学校間の連携を図れば、部員の人数調整などせず、誰もが希望する部に入ることができる。またより専門的な指導を受けられるのではないだろうか。
A	ご意見を参考に雲南市全体として、子どもたちが好きな部活動に参加できるよう検討いたします。

### 【社会教育】

#### ・子どもの居場所づくり事業

Q	子どもの居場所づくり事業は本年度で終了するのか。
A	子どもの居場所づくり事業については、現在小中学校から高校までを包括して活動を行っていますが、ご指摘のとおり今年度で終了予定です。しかし、国に対して事業の継続を懸命に働きかけており、来年度も継続して取り組めることを期待しています。

#### ・運動会

Q	市民体育大会の優勝旗を各地域に提供して欲しい。運動会というのは地域の住民が最も盛り上がるイベントである。市長杯争奪戦など市と地域が繋がるようにしてほしい。
A	優勝旗の提供について検討します。また、雲南市全体での体育大会やスポーツイベントなどの市民大会を検討しており、体育協会のご協力を得ながら開催したいと考えています。一方で現在各地区毎に行われている運動会についても、引き続き継続されることが大切だと考えます。

#### ・体育協会への補助

Q	木次町体協の予算が190万円から130万円へ減額された。全市で一律減額ならまだ理解できるが、増加したところもある。どういった対応をされたのか。
A	旧町村で補助金の額に差がありました。合併後、補助金の平準化を図ったため、そういった結果となりました。基本的には補助金の見直しを進めており、平成18年度は全体で約10%の減額を図りました。

#### ・民族資料館整備

Q	斐伊地区にある食糧事務所の跡地を民族資料館として整備するという話を聞いたが、その後はどうなっているか。
A	まちづくり交付金事業で歴史民族資料館として整備することとしており、平成17年で実施設計を終えています。全体的な事業見直しもあり、平成18年度での整備はできませんが、できれば平成19年度には実現したいと考えています。

**【国際交流】****・青少年海外視察等派遣事業について**

Q	本年度7名を派遣されるが、その詳細を聞かせて欲しい。
A	本年度の参加者は市内の中学2年生及び高校生です。定員7名の募集に対し、7名の応募があり、全員が参加されることになりました。予算については114万円で、引率の職員の旅費等もこれに含まれます。また参加者には、一人当たり20万円程度を負担してもらいます。

**生活・環境****【環境・景観】****・ごみのポイ捨て**

Q	市道脇へのポイ捨て問題について、再三検討を要請しているが、なかなか対応してもらえない。
A	先日は斐伊川一斉清掃を実施していただいたところで、大変素晴らしいことであると感謝しています。このような取り組みの発展形として、全市一斉クリーン作戦を行ってはと検討しています。
Q	野良猫を駆除できずに困っている。家によっては、生活に支障がでるほどの被害がある。なんとかして欲しい。
A	動物愛護の問題から捕獲器を貸し出し等はしておりません。実情は十分解かりますが、現在のところ猫の飼い主に適正な飼育をしていただくしか方法がありません。法律は尊重しながらも、よい対策がないか検討していきます。

**【健康・医療・福祉】****・地域医療**

Q	雲南病院の医師がいないという問題について、市としても対策をとってほしい。
A	同病院において内科の医師が不足しています。最大10人いた医師が現在6人しかいない状況になっています。この原因は2年前から研修医制度が施行され、医局に所属する医師の数が少なくなったことにあります。現在市として、島根大学・岡山大学医学部に医師の派遣を強力に要請し、早期に必要な医師数を確保するよう、懸命に努力しています。また島根大学医学部へ雲南圏域からの受験者を入学させていただくよう申し入れました。平成18年度は三刀屋高校より1人入学してくれました。一人前の医師となり、地域に貢献していただくためには時間がかかりますが、こうした地道な取り組みも並行して行っています。さらに、両大学以外にも協力していただけるよう、働き掛けています。この医師不足は深刻な問題ですので、今後も努力していく考えです。

**・保育所**

Q	加茂町では、幼稚園と保育所を一元化し、幼稚園を設置しているが、どのような運営をされているか。
A	保育所においても幼稚園においても、小学校就学前の教育を一貫して行っています。子どもたちの側から見ると幼稚園・保育所の区別はなく、帰る時間が異なるのみです。今年10月より法改正が行われ、こういった相互施設が全国的に広がるのが予想されます。
Q	保育所の民営化について 市長の考えを聞かせて欲しい。

A	<p>雲南市では、次世代育成支援計画に基づき保育サービスの充実を図るべく事業展開しています。同計画には、延長保育、休日保育、一時保育についての目標値が定められており、平成21年までに達成することとしています。就業規則などの面から考えると、公立保育所ではこれを実現するのは困難であり、また、今後職員数も減少する中、保育所を公設民営化または民営化の方がより充実した保育サービスを提供できると考えています。</p> <p>県内他市の状況を見ても、民営化、あるいは公設民営化で運営して例が多くあります。</p> <p>当面の対応ですが、まず「かもめ保育園」(大東町)への民営化方式導入を検討していきます。これは 建設当初から民間運営を想定した施設となっていること、病院、民間保育所がそばにあり保護者の皆さまの理解を得やすいことなどの理由によるものです。その後、80人以上の規模の園についても民営化方式を導入していく考えです。これについては、その位の規模であれば十分に採算がとれるとの考えによるものです。その他の小規模園については、将来の子どもの数などを考慮し、導入を検討していくことにしています。</p> <p>委託先としては、保育を専門とした業者を考えており、市の方針に基づき保育業務を行っていただきます。臨時職員の問題についても、委託先において継続雇用がなされるよう、市として十分に働きかけます。</p> <p>今後、市民の皆さまにも民営化の必要性を理解していただくため、できるだけ早く説明会などを開催していきます。</p>
Q	保育所を業務委託される場合、行政の係る範囲はどうなるのか。
A	保育業務の委託先は、保育を専門とする業者となります。完全な民営化ではなく、保育業務を民間団体へ委託する方式ですので、市の方針に従い保育が行われます。市の考えとして、臨時職員については、委託する先の社員として、継続して子どもの保育にあたって頂きたいです。

### 【交通・道路】

#### ・市民バス

Q	市民バスは車を運転できない高齢者や学生などの交通弱者へ交通手段を提供することが前提であるとする。停留所が近づくにつれて利用しづらいため改善の要望をあげたが、市からは運行路線を長くしたくないとの回答を得た。運行時間も大切だと思うが、多少時間がかかっても乗りやすいバスにして欲しい。
A	市民バスは、県の補助金を受けて運行していますが、補助を得るためには収支比率20%という条件を満たす必要があります。現在市民バスは、およそ20円を儲けるために100円の経費を掛けて運行している状況です。また、朝夕は学生の利用が多く、時間の制約もあります。そうした理由により、現時点での路線の延長は非常に困難です。

#### ・国道改良

Q	国道314号は、湯村地内から西日登地内までの間、歩道のない箇所がある。雨や雪が多い時には、狭い道路がより狭くなるため安心して歩行できない。改善して欲しい。
A	要望にお応えできるよう、引き続き国・県へ要望していきます。

#### ・県道改良

Q	木次小学校前の県道歩道の段差が高くて困るので改善してほしい。
A	県との連絡協議において今回のご指摘を伝え、改善に向けた働きかけを行います。

#### ・市道改良

Q	市道新市線の状況について、幼稚園に入るT字路と保育所付近のT字路の雨水処理が十分でない。保育所通所の道路であるので対応して欲しい。
A	現在、上下水道整備のため全市的に掘削作業が行われており、道路が荒れている状況です。市道新市線については、まちづくり交付金事業で改良するよう計画していますが、部分的補修も含めて木次総合センターと協議し、整備を進めます。
Q	町中にある小路の路面荒れており、並行して流れる川に車が落ちたこともある。暗橋にするなどの道路改良をして欲しい。
A	市道改良整備については限られた予算の中で、現在継続中の道路から、順次整備していく考えです。それらの事業に目処がつき次第、雲南市全体で改良必要箇所の優先順位をつけ、新たな事業を進めていく計画です。

Q	市道駅南線の改良について、急に中止という話を聞いた。道路、踏み切りが狭く災害時の緊急道路としては利用しづらい。何十年来の地域の切実な要望なので財政難ということで片付けるのではなく、ぜひとも実現して欲しい。
A	踏み切りの改良については先般日登地区で実施しています。数箇所を同時にすることは難しく、計画的に改良していく考えです。道路の改良についても、別事業で今後検討していきたいと考えています。
Q	行き止まりのある地域の将来的の集落づくりをどう考えているのか。
A	行き止まり道路の解消を目指す道路政策に取り組み、地域の道路事情の平準化を図っていきたいと考えています。
Q	潜水橋は素晴らしい景観なので、早急な復旧をお願いします。(7月豪雨により大量の流木などが引っかかったため。)
A	潜水橋は、素晴らしい地域資源と考えています。既に復旧のための工事発注しており、近々撤去されます。

### ・高速道路

Q	中国横断自動車道尾道松江線建設にかかわる事業費のうち、市の負担率は何%ぐらいになるのか。またいつ頃開通するのか教えてほしい。
A	事業費は約840億円です。国の新直轄方式により建設されるため、国と県が4:1の割合で事業費を負担します。従って市の負担はありません。完成の時期については、10年後をめざしていると聞いています。市としても早期完成を申し入れています。